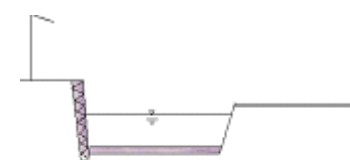


七郷用水 (築約600年)

場所・施設概要



- ▶ 場所 越前町、福井市
 - ▶ 水源 天王川
 - ▶ 延長 5,670m
 - ▶ 受益農地面積 255ha
 - ▶ 流量 1.4 m³/s
- 開水路(石積みとコンクリートの複合)



標準断面図(石積み水路)

歴史

七郷用水は日野川の支流である天王川から取水し、その歴史は古く中世にさかのぼります。

この地域は現在の受益である天王川の左岸地域一帯の越前町(旧朝日町)宝泉寺から福井市(旧清水町)真栗町にかけて七つの郷が形作られ、南北朝時代の嘉慶年間(西暦1387~1388)の文献(天王社御幸供奉日記)には、既に七郷の記述が見られることから、用水の成立もその頃と云われています。この頃から天王川の左岸一体の用水源として地域の生命線の役割を担ってきました。

堰の最も古い記録では、福井間の統治下で享保年間に改修されていますが、岩石をならべて5尺程度の杭を打ち蛇籠をつなぎ止めただけのものでした。これは簡易なものであったことから、少々のお水でも被災していました。このため、明治6年と明治24年の大改修を経てコンクリート固定堰となりました。

平成14年から、災害を未然に防ぐため井堰の改修整備が進み、水路区間は昔ながらの風情を残す石積みの部分と昭和年間に改修されたコンクリート水路の区間があります。



昔ながらの街並みに溶け込んだ水路

参考：朝日町史(旧朝日町)

地域での役割

現在の七郷用水は天王川を水源とし、七郷用水取水され、越前町(旧朝日町)、福井市(清水町)の9集落に水を送り、水田(255ha)のかんがい用水はもとより、農機具や野菜の洗浄用水として使われるほか、冬期においては消雪用水に利用されるなど、幾世代にも渡り時代を超えて、地域の身近な水辺空間として親しまれています。

管理状況

用水や施設の管理は福井朝日土地改良区が行っているほか、沿線の受益者により水路の江浚いが行われています。

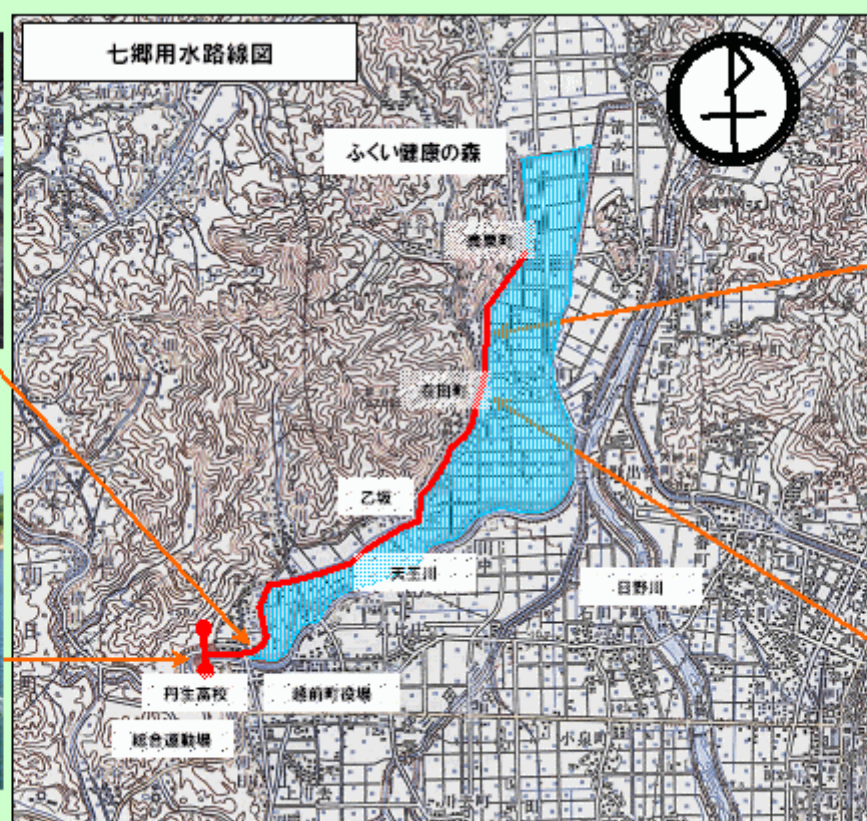
用水の状況



水路に設けられた洗い場



七郷用水堰



七郷用水路線図



古くからの歴史をきざむ石積み水路



冬季には消雪用水として利用